

## 第21回 気象の記録あれこれ

松江地方気象台は1939(昭和14)年11月に松江測候所として創設され、翌1940年4月から業務を開始した(松江市誌編纂委員会編『松江市誌:市制施行100周年記念』,1989)。以来70年余りにわたり、気温・降水量などの観測が続けられている。その記録はある意味無味乾燥な数字の羅列であるが、じっくりみれば、歴史の舞台である地域の自然、特に大気環境を知る手懸かりとなる。ところで、全国の気象台、アメダス観測点の記録が公表されている気象庁のホームページをみると、日々の記録に併せ「地点ごとの観測史上1~10位の値」というコーナーがあり、各地の気象記録を簡単に知ることができる。ここでは、松江地方気象台の記録からいくつかピックアップしてその特徴を見ていこう。

はじめに表の一番上にある日最低海面気圧。気圧は「単位面積を底面とする鉛直気柱に働く重さ(日本気象学会『気象科学事典』,1998)」で、わかりやすくいえば、地上から上空までにある空気の量を示している。その気圧の最低記録は966.1hPa(ヘクトパスカル)で1991年9月27日に観測されている。

期日が9月であることから明らかなように台風による記録で、以下10位までの記録はいずれも台風に伴うものである。台風であるから強い風も観測されていて、最低気圧を記録した同じ日に10分間の平均風速で28.5m/s、瞬間風速では56.5m/sの暴風(いずれも松江の第1位)が観測されている。

この暴風によって島根県内で1名の死亡と13万戸余りの停電被害を出した(山陰中央新報1991年9月28日)ほか、宮島・厳島神社の能舞台が壊れたり、東北では大量のリンゴが落下するなどの被害を出した。この時、私は福井市で暮らしていたが、床下の通気口から吹き込む強風が畳を持ち上げ、夜中に何度も目を覚ました思い出がある。



次に気温の記録をみると、松江の最高記録は1994年8月1日に観測された38.5℃、一方の最低記録は1977年2月19日の-8.7℃となっている。これらの値、松江では第1位であるものの、埼玉県熊谷や岐阜県多治見で2007

年に記録された 40.9℃や、東北や北海道で毎年のように観測されている寒さの記録と比べればそれほどでもなく、松江の温和な気候がよく分かる。

大垣町溜池(松江農業改良普及センター『平成 6 年度高温・干ばつ被害のまとめ』)



ところで、気温については 10 位までが観測された期日を見ると、あることに気付く。すなわち、最高気温では 10 位までのうち 6 つが 1994 年に観測されていて、この夏が如何に暑かったかが分かる。1994 年は猛暑に加え、7 月の降水量がわずか 8mm(平年比 3.2%, 月降水量の少ない記録第 3 位)で大渇水が起きた年でもあった。

また、最高気温の記録は 9 位が 1944 年である以外はいずれも 1994 年以降に記録されている。一方、最低気温の記録では 10 位中 3 つが 1940 年代に記録されているし、最も新しい期日も 1981 年 2 月で、これ以来 30 年間 10 位に入る低温は観測されていない。このように高温記録は近年更新され続けられているのに対し、最低気温では昔の記録が残っているが、これは地球温暖化に伴って松江の気候が少しずつ暖かくなっている現れであろう。

最後に、大雪に関する記録をみてみよう。松江で過去 1 番多く雪が積もったのは 1971 年 2 月 4 日の 100cm で、1 日に降った雪の量では同じ日の 90cm が記録である。この値を他地域と比べると、最深積雪は北陸や北海道の過去最高値の半分程度に過ぎない。しかし、日降雪量 90cm は新潟県上越市(高田)、福井県敦賀市に次ぐ 3 番目の記録であって、青森、富山、福井といった豪雪都市をも上回っている。すなわち、松江は日常的のそれほど多くの雪が降るわけではないが、時々ドカッと降るのが特徴である。

ちなみに、一冬の降雪量は三八豪雪として記憶されている 1963(昭和 38)年の 308cm が最高である。この年は最深積雪でも第 2 位(83cm)、第 3 位(62cm)が記録されているが、松江以上に中山間地では豪雪被害が生じ、現在まで続く過疎化のきっかけとなった年でもあった。

画像はいずれも島根県立図書館蔵本より転載

(平成 24 年 6 月 1 日 自然環境部会 田坂郁夫)